

巻頭論文

産業用インフォメーションテクノロジー応用システムの現状と展望

今日のような厳しい経済状況において企業は企業全体としての効率化をあらゆる面から追求しており、その中核技術として、インフォメーションテクノロジー(以下“IT”という。)に大きな期待が寄せられている。電力・交通・製造業・公共・ビル等のプラント／システムにおいても、企業全体の視点からの操業・運用効率化のため情報化・システム化が課題である。このため、これを担うプラント監視制御・管理システム、広域監視システム、設備管理・保守管理システム等の各種情報制御システムに、ITを駆使して新たな概念と機能を提供するソリューションが実現されつつある。

三菱電機では、情報制御システムの構成要素である計算機、ネットワーク、ミドルウェア等を国際標準化・オープン化・オブジェクト指向化・ネットワークコンピューティング化し、これらを基盤として、マルチメディア技術、インターネット／イントラネット技術など先端ITを産業用途として高機能化・高信頼化・高セキュリティ化して適用した多くの革新的な情報制御システムを実現し、以下のコンセプトで顧客の求める最適なソリューションを提案している。

- どんな情報でも把握できる全体監視
- どこでもできる監視制御や保守業務
- 既設システムとの情報連携が可能
- いつでも専門家による高度な診断ができる遠隔診断
- 故障の兆候時だけ点検する定検レスの保守支援
- 基幹業務システムと連携したプラント運営管理

松崎 正 * * 電力・産業システム事業所 開発部 ICS応用システム開発プロジェクトグループ プロジェクトマネージャー

岡村 繁 * * * * 同事業所 開発部長

浅野 光雄 * * * * * * 電力工業システム事業本部 社会インフラ統括技術部 専任